

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3671500241 | | |
| 法人名 | 医療法人 緑風会 | | |
| 事業所名 | グループホーム成長苑 | | |
| 所在地 | 徳島県板野郡藍住町勝瑞字成長55-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成21年9月9日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip_infomationPublic.do?JCD=3671500241&SCD=320 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階 | | |
| 訪問調査日 | 平成21年9月28日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族的な雰囲気なかで、利用者のケアや体調の管理にも配慮しています。法人の母体である協力病院との連携による24時間医療的措置や診察などの対応ができています。苑の庭に野菜などを植えて食材にしており、自然とふれあう機会を多く持っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周辺にはスーパーや小学校、神社などがあり、買い物や散歩に出かけやすい環境となっている。また前庭は広く、桜や梅の樹木、花壇、屋根付きの休憩所等があり、晴れた日にはおやつ時に利用するなど、戸外で過ごす時間が多くもてるよう工夫している。利用者や職員は、長年ともに暮らす家族のような温かい関係が築かれている。近くにある母体法人の医療機関と連携し、重度化しても安心して暮らせる体制を整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|---|
| | | | 1ユニット(1階) 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所が目指すサービスのあり方を端的に表した事業所の理念を示し、実践しています。具体的な援助方法を話し合い実践しています。 | 理念は、平成12年の開設時に作成された独自のものとなっている。地域を視野に入れたサービスを行っているが、地域密着型サービス創設時以降の見直しや職員間での話し合いが行われていない。 | 地域密着型サービスの意義をふまえた理念の見直しについて関係者間で話し合い、職員間で共有して実践につなげることが期待される。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 地域と利用者がつながりあいながら暮らせるように、本人が地域の一人として可能な範囲で行事に参加しています。小学生との田植えや稲刈り、わらじ作り、もちつきなども行っています。また利用者家族から、畑の作物を差し入れてもらったりしています。 | 老人会の行事や児童館主催の催し、小学生や幼稚園児との交流等を通して、利用者が地域とつながりを持ちながら暮らせるよう近隣の人々との交流の場を大切にしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症の理解のための地域の拠点としての活動は活かされていません。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議のメンバーを外部から招いてサービスの実際やインフルエンザ対策、災害対策を行いました。開催回数が少ないため反省しています。 | 運営推進会議は、地域包括支援センター職員や民生委員参加のもとに開かれ、感染症対策や防災について検討している。しかし、開催頻度は年に2回であり、2か月に1回の開催となっていない。 | 運営推進会議をサービスの質の向上や地域とのつながりを継続する貴重な機会と捉え、2か月に1回開催されたい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 町の担当者は地域包括支援センターの方ですが、運営推進会議以外にも具体的に利用者のことについて相談する機会があります。 | 毎月の利用状況の報告や要介護認定の更新申請時に町役場を訪問した際に、利用者について相談している。また地域包括支援センター職員や町職員から入居相談があるなど、連携している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束については具体的な禁止事項は把握していますが、夜間の転倒防止やずり落ち防止のために家族に了解を得て4点柵やつなぎ服を使用しています。はずすための対策を話し合うようにしています。 | 日中、玄関の鍵は施錠していない。しかし、全職員による身体拘束による弊害の理解や排除に向けた検討が不十分であり、4点柵やつなぎ服の着用などがみられる。 | 全職員が身体拘束の内容とその弊害を理解できるよう研修し、改善に向けた実践に取り組まされたい。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者の虐待について、見過ごされることのないように、常に介護者間、介護者と管理者の間で話し合っています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|--|
| | | | 1ユニット(1階) 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度についてあまり知識がないため、早急に勉強して活用できるようにしたいと思います。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の解約や更改などの際には、利用者や家族に不安を与えないように十分に説明を行い、理解を得るようにしています。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員や外部者に表せる機会を運営推進会議などを利用しています。 | 事業者は、運営推進会議を利用者や家族が意見や要望を表せる場と位置づけている。しかし、開催回数が少なく、また家族の参加も得られておらず、意見把握や運営への反映は不十分である。 | 利用者や家族からの意見や要望を引き出す努力をしたり、言い出しやすい場面をつくるなどし、また出された意見を運営に反映させる体制づくりに取り組まれない。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 運営に関して職員の意見や提案にそうように、また職員が働きやすいように意欲向上につながるように心がけています。シフトは希望を聞いて行っています。夜勤も職員の希望により2人で行っています。 | 代表者や管理者は職員の意見・提案に耳を傾け、常に運営に活かしていくよう配慮し、働く意欲の向上やサービスの質の向上に努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は管理者や職員の努力や実績に応じて給与や労働条件の改善など、やりがいや向上心がもてるように対応しています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 代表者は管理者や職員の育成の重要性を認め、各自のOJTや認知症の基礎研修や実践者研修への参加を促しています。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 代表者は、管理者や職員が同業者と交流するような研修に参加してサービスの向上を実現するよう全国、県の認知症グループホーム協会に所属しています。他のグループホームとの相互研修は認知症実践研修で行っています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 1ユニット(1階) 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | サービスを導入する段階で本人の安心を確保していく関係づくりのために、職員全員で気持ちの理解に努め、常に職員間で話し合っています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族等が困っていることや不安なこと、要望に耳を傾けて関係性を築くようにしています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時には、家族の実情や要望に耳を傾けて、今何が必要か速やかに調整しています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は利用者として介護する、されるの関係にとどまらず、利用者の個性や暮らしの知識などにも耳を傾け、共に生活するという姿勢、暮らしを共にする同士という関係を築いています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 職員は、家族と連絡を密に取りながら本人を支えていく関係を築いています。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 友人や家族の来苑などによって、これまでの人間関係を継続できるようにしています。 | 家族や友人、近隣住民の来訪が多く、また日頃から利用していたスーパーや病院の待合室など馴染みの環境の中での生活が継続されている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 孤立しないように、皆さんが関われるように、なるべく日中は食堂で過ごすようにしてもらっています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 1ユニット(1階) 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 利用者が退居しても要望があれば相談にのれるように普段から努めています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりの思いや意向にそえるよう、希望が持てるような対応をしています。 | 利用者一人ひとりの思いや希望、意向等に関心を持ち、困難な場合にも詳細に把握できるようアセスメントにセンター方式を取り入れている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 一人ひとりの生活歴や環境に配慮して、馴染みの関係を職員や家族と積み重ねています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 暮らしの現状の把握に努めています。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画はアセスメントとモニタリングを繰り返し、本人の要望にそうように状況の変化に応じて、現状に即した介護計画作成に努めています。 | 毎月のカンファレンスで、職員が機会あるごとに把握している利用者および関係者の気づきや意見を出し合って話し合い、要望や変化に即した介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別記録に日々の様子を具体的に記入しよりよいケアのために職員間で活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者の家族の状況やその時々生まれるニーズに対応しています。通院の付き添いや送迎にも対応しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 1ユニット(1階) 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 利用者が安心して生活を継続できるように友人の来苑を積極的に勧めています。また、児童館が主催している運動会や老人会の鈴虫の巣作りにも参加しています。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 事業所の協力医院や歯科、その他皮膚科や総合病院での診察の付き添いにも家族と協力しています。 | 皮膚科や歯科、眼科、整形外科などの専門医療は、利用者や家族が希望する医師の診察・治療が受けられるよう通院や事業所でできる処置など必要な支援を行っている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 協力医院の看護職に体調や些細な変化も報告して、協力医院に直ちに対応してもらっています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院によるダメージを極力なくすように、何度も病院に様子を見に行くようにしています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合の指針について、同法人の協力医院の医師や看護職、成長苑の職員が、本人や家族の意思にそうように、安心した終末期を迎えられるように支援しています。 | 重度化した場合や終末期のあり方について、入居時から段階ごとに本人や家族・関係者と意向を確認しながら対応を話し合い、安心して過ごせるよう支援している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変した時の対応については、常に病院と連携し、医師の指示がもらえるようにしています。また、マニュアルは作成していますが、応急措置の訓練は定期的に行っていません。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回消防署の協力を得て、消火器の使い方や避難経路の確認、避難訓練を利用者とともにを行っています。 | 年に2回、消防署の立会のもとで利用者とともに避難訓練を実施している。地域への働きかけは運営推進会議で行い、近くに住民民生委員や元入居者の家族等の協力が約束されている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|--|
| | | | 1ユニット(1階) 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者の情報収集や外部の情報連携の際には、情報の守秘義務は守るようにしています。介護に際して本人を傷つけないよう気をつけています。 | 個人情報の保護や認知症利用者に対する行動指針としてのマニュアルはあるが、研修は行われておらず、全職員への周知は不十分である。 | 勉強会や研修の機会をつくり、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を全職員がお互いに確認し合えるように取り組まれない。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者に合わせて、意思を汲み取れるよう表情や聞き取りにくい言葉などを傾聴するように努力しています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの1日の行動に合わせていますが、基本的な流れや職員の配置、時間による段取りや予定も考えています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 利用者の好みに合わせて、洋服などを選んでいきます。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事のメニューについて職員が利用者の希望を聞いて買い物に行ったり、お寿司が好きな人が多いので、よくチラシ寿司も作っています。また、カレーライスが嫌いな人や油物の苦手な人には別のものを出すようにしています。 | アンケートを取り利用者の好みの食事を増やしたり、別メニューを考えたりしている。また利用者ができることを一緒にしながら、食事時間が楽しめるよう支援している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 利用者の食事量を日々チェックし、量的な問題から体調に問題が出そうなときは、協力病院の主治医に相談し、栄養の補給のアドバイスや点滴などで対応してもらっています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔内のケアができない人は、洗面所に誘導し対応しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 1ユニット(1階) 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を使用して排泄パターンを個々に把握しています。また、パット交換、紙パンツ交換をしたり、排便や排尿の誘導をしています。 | 排泄チェック表を活用し、個々のパターンを把握してトイレ誘導をしたり、オムツの使用回数を減らしたりして自立できるよう支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘がちな利用者が多いので、食物繊維を十分に取れるように気を使ったり、牛乳など乳製品をとってもらったり、排便パターン排尿排便シートを作成し、定期的の下剤も使用しています。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | ゆっくり入りたい人は後に回ってもらったり、利用者の希望を聞くようにしています。 | 利用者のその時々々の希望にそうよう配慮し、個々にくつろいだ気分で入浴できるよう支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 夜間はゆっくり寝ていただけるように、日中はなるべく起きて皆さんと会話してもらったり団欒の時間を大切にしています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個々の服薬、塗布している塗り薬などの効能や用途について薬手帳などで理解するようにしています。処方の変更については職員が把握できるように申し送り帳に必ず記入し確認しています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者それぞれが洗濯物たたみや掃除などの作業に参加できるように誘導しています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 歩行困難な方も、車椅子などを使用して出かけられるように心がけています。 | 庭の散歩やスーパーへの買い物など日常的に戸外に出かける機会が多い。また、花見や初詣などの行事も実施し、楽しみとなっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 1ユニット(1階) 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族の協力のもと、小額のお金を管理しています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 遠方の家族からよく電話がかかってくる利用者もいます。また、電話をかけてほしいと言われる利用者には電話をかけてつなげています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関などで混乱しないように、居心地よく過ごせるよう配慮しています。 | 玄関や居間には生け花や絵画、入居者の作品等が飾られ、温かな雰囲気になっている。共有空間は掃除が行き届き、明るく清潔な感じで気持ちよく過ごせるよう配慮している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用部分に掲示している季節の飾り(ひな祭りや端午の節句やクリスマスなど)は、利用者と飾り付けています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自分が以前に使っていた家具を持ってこられる方もいます。 | 各居室は洋間で、ベッドと床頭台が備え付けられている。中には使い慣れたベッドやテレビ、馴染みの小物などを持ち込み、思い思いの部屋づくりとなっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者一人ひとりの能力に応じて生活できるよう、手すりなども必要な場所に増設しました。 | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|--------------------|-----|---|--|------|------|
| | | | 2ユニット(2階) 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所が目指すサービスのあり方を端的に表した事業所の理念を示し、実践しています。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域と利用者がつながりあいながら暮らせるように、本人が地域の一員として可能な範囲で行事に参加しています。小学生との田植えや稲刈り、わらじ作り、もちつきなども行っています。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症の理解のための地域の拠点としての活動は活かされていません。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議のメンバーを外部から招いてサービスの実際やインフルエンザ対策、災害対策を行いました。開催回数が少ないため反省しています。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 町の担当者は地域包括支援センターの方ですが、運営推進会議以外にも利用者のことについて相談する機会があります。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束については具体的な禁止事項は把握していますが、夜間の転倒防止やずり落ち防止のために家族に了解を得て4点柵やつなぎ服を使用しています。はずすための対策を話し合うようにしています。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者の虐待について、見過ごされることのないように、常に介護者間、介護者と管理者の間で話し合っています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|-----|--|---|------|------|
| | | | 2ユニット(2階) 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度についてあまり知識がないため、早急に勉強して活用できるようにしたいと思います。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の解約や更改などの際には、利用者や家族に不安を与えないように十分に説明を行い、理解を得るようにしています。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員や外部者に表せる機会を運営推進会議などを利用して利用しています。また、利用者の家族の来訪時に様子をお知らせし、要望については申し送りしています。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 運営に関して職員の意見や提案にそうように、また職員が働きやすいように意欲向上につながるように心がけています。職員個々に休みの希望を聞いて、シフトを作成しています。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は管理者や職員の努力や実績に応じて給与や労働条件の改善など、やりがいや向上心がもてるように対応しています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 代表者は管理者や職員の育成の重要性を認め、各自のOJTや認知症の基礎研修や実践者研修への参加を促しています。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 代表者は、管理者や職員が同業者と交流するような研修に参加してサービスの向上を実現するよう全国、県の認知症グループホーム協会に所属しています。他のグループホームとの相互研修は認知症実践研修で行っています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----------------------------|-----|--|---|------|------|
| | | | 2ユニット(2階) 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | サービスを導入する段階で本人の安心を確保していく関係づくりのために、職員全員で気持ちの理解に努め、常に職員間で話し合っています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族等が困っていることや不安なこと、要望に耳を傾けて関係性を築くようにしています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時には、家族の実情や要望に耳を傾けて、今何が必要か速やかに調整しています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は利用者として介護される、されるの関係にとどまらず、利用者の個性や暮らしの知識などにも耳を傾け、共に生活するという姿勢、暮らしを共にする同士という関係を築いています。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 職員は、家族と連絡を密に取りながら本人を支えていく関係を築いています。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 友人や家族の来苑などによって、今までの人間関係を継続できるようにしています。地域の友人や知人の来苑を歓迎し、交流できるように働きかけています。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 孤立しないように、皆さんが関われるように、なるべく日中は食堂で過ごすようにしてもらっています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|------------------------------------|------|--|---|------|------|
| | | | 2ユニット(2階) 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 利用者が退居しても要望があれば相談にのれるように普段から努めています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりの思いや意向にそえるよう、希望が持てるような対応をしています。日々の関わりの中で声かけに努め、言葉や表情から確認しています。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 一人ひとりの生活歴や環境に配慮して、馴染みの関係を職員や家族と積み重ねています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 暮らしの現状の把握に努めています。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画はアセスメントとモニタリングを繰り返し、本人の要望にそうように状況の変化に応じて、現状に即した介護計画作成に努めています。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別記録に日々の様子を具体的に記入しよりよいケアのために職員間で活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者の家族の状況やその時々生まれるニーズに対応しています。通院の付き添いや送迎にも対応しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|------|---|---|------|------|
| | | | 2ユニット(2階) 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 利用者が安心して生活を継続できるように友人の来苑を積極的に勧めています。また、児童館が主催している運動会や老人会の鈴虫の巣作りにも参加しています。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 事業所の協力医院や歯科、その他皮膚科や総合病院での診察の付き添いにも家族と協力しています。また必要に応じて、家族の方にも様子や変化を伝えています。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 協力医院の看護職に体調や些細な変化も報告して、協力医院に直ちに対応してもらっています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院によるダメージを極力なくすように、何度も病院に様子を見に行くようにしています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合の指針について、同法人の協力医院の医師や看護職、成長苑の職員が、本人や家族の意思にそうように、安心した終末期を迎えられるように支援しています。常に家族の意向や意見交換を全職員でミーティングし、把握するよう努力しています。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変した時の対応については、常に病院と連携し、医師の指示がもらえるようにしています。また、マニュアルは作成していますが、応急措置の訓練は定期的に行っていません。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回消防署の協力を得て、消火器の使い方や避難経路の確認、避難訓練を利用者とともにしています。消火器の訓練の時は利用者にも使ってもらい、訓練をしています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----------------------------------|------|--|--|------|------|
| | | | 2ユニット(2階) 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者の情報収集や外部の情報連携の際には、情報の守秘義務は守るようにしています。介護に際して本人を傷つけないよう気をつけています。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者に合わせて、意思を汲み取れるよう表情や聞き取りにくい言葉などを傾聴するように努力しています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの1日の行動に合わせていますが、基本的な流れや職員の配置、時間による段取りや予定も考えています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 利用者の好みに合わせて、洋服などを選んでいきます。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事のメニューについて職員が利用者の希望を聞いて買い物に行ったり、お寿司が好きな人が多いので、よくチラシ寿司も作っています。また、カレーライスが嫌いな人や油物の苦手な人には別のものを出すようにしています。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 利用者の食事量を日々チェックし、量的な問題から体調に問題が出そうなときは、協力医院の主治医に相談し、栄養の補給のアドバイスや点滴などで対応してもらっています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔内のケアができない人は、洗面所に誘導し対応しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|------|---|---|------|------|
| | | | 2ユニット(2階) 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を使用して排泄パターンを個々に把握しています。また、パット交換、紙パンツ交換をしたり、排便や排尿の誘導をしています。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘がちな利用者が多いので、食物繊維を十分に取れるように気を使ったり、牛乳など乳製品をとってもらったり、排便パターン 排尿排便シートを作成し、定期的に下剤も使用しています。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | ゆっくり入りたい人は後に回ってもらったり、利用者の希望を聞くようにしています。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 夜間はゆっくり寝ていただけるように、日中はなるべく起きて皆さんと会話してもらったり団欒の時間を大切にしています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個々の服薬、塗布している塗り薬などの効能や用途について薬手帳などで理解するようにしています。処方の変更については職員が把握できるように申し送り帳に必ず記入し確認しています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者それぞれが洗濯物たたみや掃除などの作業に参加できるように誘導しています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 歩行困難な方も、車椅子などを使用して出かけられるように心がけています。近所のスーパーに出かけることを楽しみにしている利用者もいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|------|--|--|------|------|
| | | | 2ユニット(2階) 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族の協力のもと、小額のお金を管理しています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 遠方の家族からよく電話がかかってくる利用者もいます。また、電話をかけてほしいと言われる利用者には電話をかけてつなげています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関などで混乱しないように、居心地よく過ごせるよう配慮しています。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用部分に掲示している季節の飾り(ひな祭りや端午の節句、クリスマスなど)は、利用者と飾り付けています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自分が以前に使っていた家具を持ってこられる方もいます。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者一人ひとりの能力に応じて生活できるよう、手すりなども必要な場所に増設しました。 | | |